



女性活躍推進委員会

おん・なだ

On・nada 調査隊

女性活躍推進委員会のドバシです。

10月3日に京都市内で「JR連合第14回政策シンポジウム」が開催されました。参加したヨシダさんに感想をインタビューしたいと思います。



会場には全国から約300人が集まった



首藤教授の講演の様子

第1部の講演は、労使関係論や女性労働論を専門とされる首藤若菜教授の講演だったそうですね。



はい！昨今の雇用情勢の変化を踏まえた労働組合の役割やジョブ型雇用の実態などの話を聞くことができました。



報告する大久保書記長

また、第2部は単組報告だったのですが、JR九州労組からは大久保浩書記長がJR九州の「人事・賃金制度改正の取り組み」について報告をしました。他の単組の方々も興味がある内容だったので、会場の皆が熱心に聞き入っていました。



女性活躍推進委員会の事務局長の立場では、第3部のパネルディスカッションが気になっています。女性組合員視点からJR東海ユニオンの榎裕さんが登壇されていたと聞いています。どのような提起がありましたか？



パネルディスカッションの様子

はい！私もとても気になっていました。

榎裕さんの提起は ①休職・休暇制度を利用する人を「支える側」の視点や声を労使協議に取り入れる ②JR産業の「現場職」の働き方に合うよう柔軟な制度運用を行う ③多様な人財の意見を労使協議に反映させるため女性自身が声を上げる という3点でした。



発言する榎裕氏

③について行動ポイントです。私達も意識したいですね！

- ★女性自身のバイアスに気づく、突破する
- ★組織のジェンダーギャップをなくす
- ★自分の言葉で想いを伝える

